

## 第 2 章 流域及び河川の自然環境

### 2 - 1 流域の自然環境

#### 国定公園に囲まれた豊かな自然環境

山国川流域は大分・福岡両県の 3 市 3 町にまたがり、大分県と福岡県の県境にそびえる英彦山（標高約 1200m）を源となし、『耶馬日田英彦山国定公園』並びに『名勝耶馬溪』に指定され、風光明媚な自然景観と豊かな自然環境に恵まれている。

源流域を含む上流部では、稜線一帯にブナ・ヒノキの天然林、渓谷に残るシオジ林、アラカシ林やシイ・カシ萌芽林で覆われた溪畔林がみられる。魚類ではタカハヤ、カワヨシノボリが、鳥類ではカワセミ類・セキレイ類・カワガラスなどが生息している。

支川山移川においては、山国川合流点上流 1.1km の耶馬溪ダム湖周辺は、スギ・ヒノキ植林とアカメガシワ群落の照葉樹林が混在し、ダム湖内には、コイ、ギンブナ、オイカワ、ウグイ等の魚類や、カワウ、ヤマセミ、ミサゴ、サシバ等の鳥類が生息する。

また、ダム湖末端では、オヤニラミ、アカザ、ヤマトシマドリ等の特定種が生息している。

中流部では、耶馬溪層の凝灰角礫岩の侵食により奇岩・秀峰が多く見られ、河道は、瀬と淵が交互に現れ、河床は岩塊や巨石・玉石となっている。

河岸にはエノキ・ムクノキなどの河畔林、水辺にはツルヨシ、オギ、キシツツジが生育している。

魚類は、淵にはオイカワ、カワムツ、ムギツク等が、瀬にはアユが多く生息し、オヤニラミやアカザの特定種も生息している。

鳥類は、砂礫河原にシギ・チドリ類が、冬場にヨシガモ、オシドリ等のカモ類やユリカモメが“青の洞門”周辺に多く飛来する。

下流部では、河畔にヤナギ林、オギ群落が、水辺にヨシ・ツルヨシ群落が生育し、春季にはオオヨシキリ、サギ類が、冬季にはマガモ・ヨシガモ等のカモ類が飛来する。水域には、オイカワ、ウグイ、タナゴ類等が生息し、平成大堰下流の瀬はアユの産卵場となっている。

下宮永堰下流は感潮区間で、河口干潟にはハマサジ、フクド等の塩生植物や、カブトガニ、ハクセンシオマネキ、アオギス等が生息している。

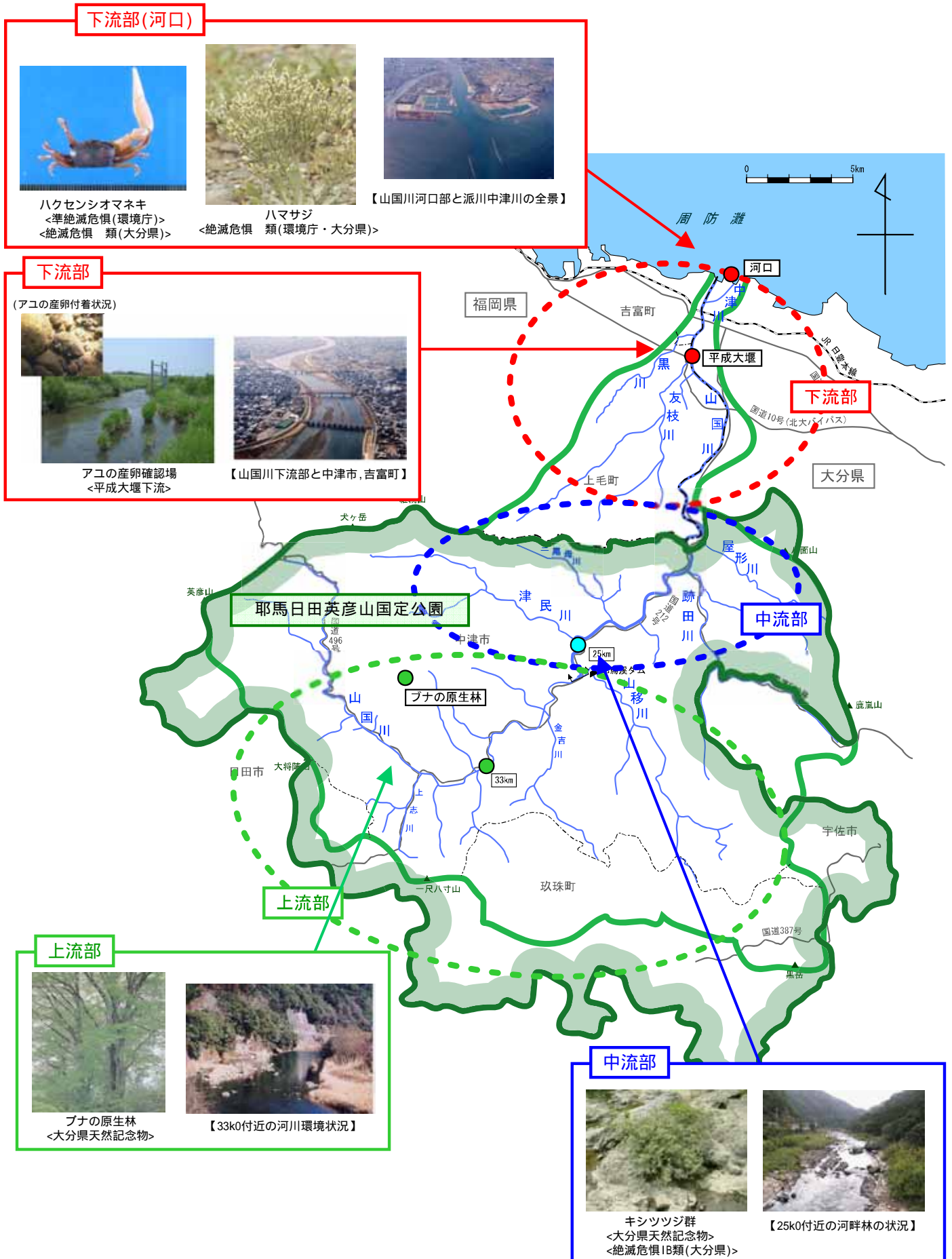


図 2-1 山国川流域の特徴ある自然環境

## 2 - 2 河川及びその周辺の自然環境

### (1) 広大な干潟に生息する動植物

山国川河口部には、日本有数の干潟が形成され、カブトガニ、ハクセンシオマネキ、アオギス、サツパ、コノシロ、トビハゼ等の汽水域の魚介類が多く生息している。中津川にはヨシ原が形成され、オオヨシキリ、カモ類等の生息地となっている。また、水際には、ハマサジ、フクド、ホソバノハマアカザ等の稀少な塩生植物が分布している。

### (2) 良好な水質に生息する動植物

淡水域で代表する魚類では、ウグイ、オイカワ、カワムツ、タカハヤ、カワヨシノボリ等が優占種として挙げられ、さらに水の棲んだ清流に生息するアカザ、オヤニラミ、ヤマトシマドジョウ、ヤリタナゴ、アユなどが挙げられる。

鳥類では清流にヤマセミ、カワセミ、セキレイ類、カワガラスなどが、砂礫河原にシギ・チドリ類が生息している。

底生生物では、上流域での水質の良好な場所に生息するゲンジボタルが確認されている。

### (3) 山国川の代表的な植物群落と植物

山国川の植物は、感潮区間においてはヨシ原が、淡水区間ではツルヨシ、オギ群落が優先し、河岸にはジャヤナギ、アカメヤナギのヤナギ林が河畔林を形成している。

上・中流域では、メダケ群落や、エノキ・ムクノキ群集、タブノキ・アラカシ群落等の広葉樹林が河岸に広範囲に出現する区間もある。

また、貴重な川辺の植物として、淡水域の水際に生育するタコノアシが下宮永堰上流で、中流域の水際の岩肌にキシツツジが確認されている。

【ヤマセミ】



【ハクセンシオマネキ】  
環境庁 RDB、大分県 RDB：準絶滅危惧



【アカザ】

環境庁 RDB、大分県 RDB：絶滅危惧 類



【ハマサジ】  
環境庁 RDB、大分県 RDB：絶滅危惧 類



## 2 - 2 - 1 河川の環境特性

### ( 1 ) 上流部の環境【指定区間】

源流域を含む上流域では、稜線一帯にブナ・ヒノキの天然林、渓谷に残るシオジ林などが見られる。河岸の多くは崖状の所が多く、河道は勾配が急で、瀬と淵が連続的に現れ、河床は岩塊や巨石・玉石の山地溪流を呈している。

河岸にはアラカシ林やシイ・カシ萌芽林で覆われた溪畔林がみられる。

魚類ではタカハヤ・カワムツB型が優占し、カワヨシノボリも確認され、鳥類ではカワセミ類・セキレイ類・カワガラスなどが生息している。また、ニホンザル・キツネ等の哺乳類も確認されている。



【山国川上流部の全景（河口から 40km 周辺）】

山国川上流部は小規模な河岸段丘がみられ、右岸側には山国町の集落がみられる。



【上流部の河川環境 河口から 33km】

- ・河床は岩塊や巨石、玉石で構成されている。
- ・タカハヤ、カワムツB型などが生息している。
- ・河岸の崖地にはアラカシ林が河畔林として分布する。
- ・水辺の植生はツルヨシが主体となっている。

【キセキレイ】セキレイ科



標高 1500m 以下の河川・溪流等で繁殖し、4月上旬から8月頃まで産卵する。

昆虫類を好んでついでみ、地上や水中などで餌をさがし、ときには溪流の岩から舞い上がって飛んでいる虫をついでむこともあり、上流域で多く見られる。

【タカハヤ】コイ科



日本海側では富山県以西、太平洋岸では静岡県以西の本州、四国、九州に分布する。

河川の上流域から中流域、山あいの湖沼などに生息し、成魚は岩石や柳の下などに隠れ場を持ち、そこから淵の中層に出て群れで摂餌する。落下昆虫、底生昆虫、付着藻類のうちどれかを専食する。産卵期は3~8月。

山国川では源流部を含む上流部で優占種となっている。

( 2 ) 中流部の環境【直轄区間 10.2k ~ 27.4k 付近】

中流部においては、耶馬溪層の凝灰角礫岩の侵食により奇岩・秀峰が多く見られ、河道は、瀬と淵が交互に現れ、河床は岩塊や巨石・玉石となっている。

河岸にはエノキ・ムクノキなどの河畔林が繁茂し、水辺にはツルヨシが優占し、ネコヤナギの群落が帯状に多く見られる。また、大分県の天然記念物であるキシツツジが水際の岩肌に生育している。

河床を横断する岩脈のため生じた蕨野の滝や鮎返りの滝などの瀑布があり、魚類や底生動物類に対し多様な生息環境を作り出している。

魚類は、オイカワやカワムツ・ムギツク等が、瀬にはアユも多く生息し、アユ釣が盛んである。また、保護上重要なオヤニラミやアカザも確認されている。

鳥類では、サギ類、カモ類、セキレイ類、ヤマセミ・カワセミ、シギ・チドリ類、ミサゴ、サシバ等が生息し、冬場にヨシガモ、オシドリ等のカモ類やユリカモメが荒瀬堰湛水域の“青の洞門”周辺に多く飛来する。

支川山移川においては、山国川合流点上流 1.1km の耶馬溪ダム湖周辺は、スギ・ヒノキ植林とアカメガシワ群落の照葉樹林が混在し、ダム湖内には、コイ、ギンブナ、オイカワ、ウグイ等の魚類や、カワウ、ヤマセミ、ミサゴ、サシバ等の鳥類が生息する。

また、ダム湖末端では、オヤニラミ、アカザ、ヤマトシマドリョウの特定種が生息している。



【中流部の全景 河口から 14km】

河道は湾曲を大きくくり返し、川幅は徐々に広くなり流下している。



【中流部の河川環境 河口から 12.5km】

- ・河床は岩塊や巨石、玉石などで構成している。
- ・瀬と淵が交互に現れ、水深の深いM型がみられる。
- ・オイカワ、アユなどが生息している。
- ・河岸にはエノキ・ムクノキなどの河畔林がある。
- ・水辺にはツルヨシが優占している。

【キシツツジ】 ツツジ科



キシツツジは、岡山県以西の本州、四国、九州に分布し、河川の中上流の河岸に生えるが、山国川では昭和7年ごろ知られ、『キシツツジ』として大分県の天然記念物に指定されている。

(大分県 RDB 絶滅危惧 B類)

【オイカワ】 コイ科



北陸・関東地方以西の本州、四国の瀬戸内海、九州の河川中・下流域に広く分布する。

Bb 型より下流の平瀬から淵にかけて多く、瀬(荒い早瀬を除く)を最も好む傾向にある。成魚の食性は、川では付着藻類を中心に流下・落下昆虫、底生昆虫を食べる。産卵期は5月下旬(水温 18~20 )~8月下旬まで、流れの緩い平瀬などに産卵する。

山国川では中流部から下流部に多く生息がみられる。

### 【アユ】アユ科 両側回遊魚



両側回遊性のアユは北海道西部以南の日本各地に分布する。卵からふ化した仔魚は川の流れとともに海に下り、仔魚期を沿岸海域で過ごす。春になり群れをなして河川に遡上する。

河川の中流から上流域に縄張り争いの末一定規模の縄張りを確保し、そこを餌場として定着する。産卵期は、成熟した雌雄は彼岸頃から11月下旬にかけて、中流域最下部の流速の速い砂利底の浅瀬に、多数群がって産卵する。産卵は主に夜間に行われる。

山国川では下宮永堰下流、蕨野の滝、林五龍の滝周辺がアユ漁の禁止区域に指定されている。

### 【アカザ】アカザ科



宮城 - 秋田以南に分布する日本固有種である。体長は約10cm、体色は赤レンガ色で頭部は縦扁し口の周囲には8本のヒゲを持つ。

胸ビレと背ビレの棘に毒があり、不用意につかむとかなり痛い目にあう。水質が良好で浮き石の多い礫底で、石のまわりや隙間を落ち着きなくチョロチョロと泳ぎまわり水生昆虫などを捕食する。

山国川では上～中流部に生息する。

環境庁 RDB, 大分県 RDB : 絶滅危惧 類

### 【オヤニラミ】スズキ科



淀川・由良川以西の本州各地と、四国北部、九州北部に分布する。全長約130mm。口は大きく、上顎の後端は眼の中央の直下よりも後方に達する。

体色は緑色の金属光沢を帯びたこげ茶で、背側はやや暗色である。鰓ふたの後方に、ほぼ眼と同じ大きさの藍色の斑紋がある。水のきれいな、流れの緩やかな場所を好む。

ヨシやコウホネなど抽水植物の多い場所で、1尾ずつが相離れて生息する。

山国川では上～中流部に生息がみられる。

環境庁 RDB, 大分県 RDB : 準絶滅危惧



【ヤマセミ】カワセミ科



北海道から九州にかけて生息する留鳥。主に土の崖に横穴を掘って営巣する。餌は魚類が中心で、川や湖沼を餌場とする。生息地での河川改修に際しては、河岸の切り立った崖や土羽を極力残す必要がある。

【カワセミ】カワセミ科



山地から平地の川、湖沼などの水辺に生息する。川沿いの粘土質の崖に横穴をあけ、その奥に営巣する。魚類、エビ、カエル、貝などを補食する。

### (3) 下流部の環境【直轄区間 2.6k～10.2k 付近】

下流域においては、三口付近から川幅は急激に広くなり、扇状地形を呈している。河道は県境を緩やかに蛇行し、大井手堰や平成大堰等による湛水区域が広がり、瀬・淵は明瞭でなく、河床は礫から砂礫、砂へと変わって行く。

水辺にはヤナギ類で構成される河畔林がまとまった形で点在し、陸域にオギ、水際にヨシ・ツルヨシ等河川特有の植生の分布が見られる。特に、下宮永堰上流の水際部には特定種であるタコノアシが生育している場所がある。

鳥類では、カワセミ、サギ類等が生息し、春季はオオヨシキリの繁殖場、冬季にはヒドリガモ・マガモ・ヨシガモ等のカモ類の越冬地となっている。

堰による湛水域には、オイカワ、ウグイ、タナゴ類の魚類が生息し、平成大堰下流の瀬はアユの産卵場となっている。



【下流部の全景 河口から 3km 付近】

- ・河道は大きく広がり、左岸高水敷を多目的広場として利用している。
- ・下宮永堰で淡水区域と感潮区域に区分される。
- ・緩やかに蛇行し、中津市の西側を流下し周防灘に注ぐ。



【下流部の河川環境 河口から 4km】

- ・下宮永堰により湛水域が形成され、瀬・淵は明瞭でない。
- ・河床は砂礫質となっている。
- ・ヤナギ類で構成される河畔林がみられる。

【ツルヨシ】イネ科



本州から九州、沖縄、朝鮮、中国、ウスリーに分布する。川の上流域の河岸や砂礫地に多く生える。

根茎(つる)は細長い円柱形で地上を這い、節ごとに分岐し、茎は円柱形で高さ 1~1.5m になる。中空で節に短い軟毛がある。花期は 8~10 月で、茎の先端に紫色の花穂を直立する。

山国川では全流域において多く繁茂している。

【オギ】イネ科



オギは北海道、本州、四国、九州に分布する。泥の堆積した川原や水辺などの湿地に生える。

ススキによく似た大形の多年草。茎は高さ 1~2.5m になる。根茎は地中を長く横にはい、1本ずつ茎を立てて大きな群落をつくり、ススキのような株立ちにはならない。花期は 9~10 月。

山国川で中~下流部の陸域部に分布している。

## 【ヤナギ類の樹林】



高水敷に繁茂するヤナギ類は、山国川ではジャヤナギが多い。ジャヤナギは、本州、四国、九州に分布する。

小川の縁や湿地に自生する落葉高木。幹は高さ 10m、直径 25cm に達する。雌雄異株。4 月頃、葉と同時に上向きに尾状花序をつける。ジャヤナギの他に、アカメヤナギなども見られる。

山国川では中～下流部かけて、まとまった形で河畔林を形成している。

## 【タコノアシ】ユキノシタ科



本州、四国、九州に分布し、湿地の浅い沼地に生育し、休耕地にも侵入する。

種子・地下茎で繁殖する。花期は 8～9 月、花が花序の枝にタコの足の吸盤のように並ぶのでタコノアシの名がある。

山国川本川では、下流部の下宮永堰上流左岸の水際に生育がみられる。

(環境庁 RDB: 絶滅危惧 類、  
大分県 RDB: 絶滅危惧 I.B)

## 【オオヨシキリ】ウグイス科



夏鳥として春は 4 月下旬から 5 月中旬ごろまでに渡来し、秋は 9 月上旬から下旬ごろまで渡去する。

ヨシ原やマコモのくさむらの中に営巣し、5 月から 8 月ごろ産卵する。昆虫類を主食とし、ゴミムシ・ゾウムシ・ハムシ・コガネムシなどを好んでついでみ、カエル・カタツムリなども餌とする。

山国川では、下流部のオギやヨシ原で営巣しているのがみられる。

( 4 ) 河口部の環境【直轄区間 河口～2.6k 付近】

下宮永堰より下流は感潮区間で、河床は砂礫質、砂泥質で構成されている。

下宮永堰下流はアユの産卵場で、大分県内水面漁業調整規則により、9月10日から11月10日までアユ漁の禁止区域に指定されている。

山国川より分派した中津川の河口付近は、ハマサジ・フクド等の貴重な塩生植物が生育し、冬季にはヒドリガモ・マガモ・ヨシガモ等のカモ類の越冬地となっている。

水域には、汽水・海水性のサツパ、コノシロ、トビハゼ等が生息している。

さらに、山国川・中津川の河口域は、我が国でも有数の干潟が広がり、カブトガニ、ハクセンシオマネキ、アオギスといった貴重な生物の生息地となっている。



【山国川河口部と派川中津川の全景】

河道は1km 付近で分派し派川中津川を形成し、周防灘に注いでいる。



【山国川河口の河川環境 0.4km】

- ・河口部で瀬・淵は明瞭でない。
- ・河床は砂礫質となっている。
- ・左岸は福岡県、右岸は大分県で河川内が県境となっている。
- ・両岸は既設護岸で植生はない。



【派川中津川河口の河川環境 0.2km】

- ・干潮時は干潟となり、河床は砂泥質である。
- ・左岸に小規模な砂丘がみられ、砂丘性及び塩性湿地の植生がみられる。

【ヨシ群落】 イネ科



ヨシは、日本全土に分布し、各地の池沼、河岸などに普通に生える大形の多年草。

高さ 2～3m となり、地下茎は長く泥中をはい大群落をつくる。葉は長さ 20～50cm、幅 2～4cm。花序は円錐形につき長さ 15～40cm。長さ 1.2～1.7cm の小穂がつく。花期は 8～10 月。

山国川では下流部の派川中津川に広く分布している。

【ハマサジ】 イソマツ科



海岸の砂地に生え、2 年草で高さ 50cm 程度の花の茎は枝分かれしながら直立し、先の方に多数の小さな黄色の花をつける。名は葉の形から『浜のさじ』。

派川中津川河口左岸に生育がみられる。

(環境庁 RDB、大分県 RDB: 絶滅危惧 類)

【カモ類】



渡来するカモ類は、ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、カルガモ、ヨシガモ等で、多くのカモ類が山国川流域及び河口周辺で越冬する。

【ハクセンシオマネキ】 スナガニ科



伊勢湾以南の干潟に生息する。以前は瀬戸内海や九州沿岸のいろんな場所に生息していたが埋立や河川、海の汚濁進行に伴い激減した。

(環境庁 RDB、大分県 RDB: 準絶滅危惧)

表 2-1 山国川流域の生物群集の特徴

(1) 陸域生物	
1) 植物	<p>上流域：ブナ・ヒノキ天然林、シロシノブ林、エビノ木・ムクゲ群落、アサギナ、シカクシノブ林の自然林、スギ・ヒノキの植林。</p> <p>中流域：河岸には、エビノ木・ムクゲ群落、マツ群落、ヤブ群落が分布、河辺にはツバキ・ササ群落、ササ群落が分布</p> <p>下流域：河岸には、エビノ木・ムクゲ群落、河辺にはツバキ・ササ群落、ヤブ群落、クマシロシノブが分布</p> <p>河口域：河辺にはツバキ・ササ群落、ガマ群落が分布、干潟にはハマサシ、フクロ、ホトケ、ハマサシの塩生植物が分布。</p>
2) 鳥類	<p>上流域：ヤマシロ、カサシロ、カサシロ、セキレイ類等の水鳥、ハヤブサ、ミサゴ、ハイタカ、サバの猛禽類が飛翔。 耶馬溪ダム湖内にはカサシロ、ヤマシロ、カサシロ、カサシロの水鳥、ミサゴ、ハイタカ、サバの猛禽類が飛翔</p> <p>中流域：ササ類、セキレイ類、ヤマシロ、カサシロ、シロ、チドリ類等の水鳥、ハヤブサ、ミサゴ、ハイタカ、サバの猛禽類が飛翔 青の洞門付近にはカサシロ、チドリ等のカサシロ、カサシロ等が飛来。</p> <p>下流域：ササ類、カサシロ、カサシロ、カサシロ等の水鳥、ハヤブサ、ミサゴ、サバの猛禽類が飛翔</p> <p>河口域：カサシロ、ササ類、チドリ、カサシロ、カサシロ、カサシロ等の水鳥、ハヤブサ、ミサゴの猛禽類が飛翔</p>
3) 両生類・爬虫類・哺乳類	<p>上流域：アマガエル、ヌマガエル、ツチガエル、タマガエル、カサガエル、スッポン、カサシロ、ヤマシロ、アマガエル、ジメシロ、アマガエルが生息</p> <p>中流域：アマガエル、ヌマガエル、カサガエル、スッポン、カサシロ、ヤマシロ、アマガエル、ヤマシロ、ヒナコウリ、アマガエルが生息</p> <p>下流域：アマガエル、ヌマガエル、カサガエル、カサシロ、ヤマシロ、ジメシロ、アマガエルが生息</p>
4) 昆虫類	<p>上流域：カサシロ、モトイトトンボ、ゲンジボト、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ等が生息</p> <p>中流域：カサシロ、イトトンボ、ゲンジボト、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ等が生息</p> <p>下流域：カサシロ、イトトンボ、ゲンジボト、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ等が生息</p>
(2) 水域生物	
1) 魚類	<p>上流域：カサシロ、カサシロ、アサギ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ等が生息 耶馬溪ダム湖では、カサシロ、カサシロ、カサシロ等が生息</p> <p>中流域：カサシロ、カサシロ、アサギ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ等が生息</p> <p>下流域：カサシロ、カサシロ、アサギ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ等が生息 平成大堰下流の瀬はアサギの産卵場</p> <p>河口域：カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ等が生息</p>
2) 底生動物	<p>上流域：モアサギ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ等が生息</p> <p>中流域：モアサギ、カサシロ、カサシロ、カサシロ等が生息</p> <p>下流域：モアサギ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ等が生息</p> <p>河口域：カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ、カサシロ等が生息</p>



## 2-2-2 山国川における特定種

### (1) 注目すべき生物

山国川水系の生物の特徴を適切に把握するため、「希少性・良好性・生態系」の観点より、整理対象の種を「注目種」として選定した。

希少性から重要と考えられる生物種【希少性】

良好な自然環境を代表していると考えられる種【良好性】

山国川水系生態系の特徴を表すと考えられる種【生態系】

河川水辺の国勢調査およびその他の生物調査から、山国川水系生育・生息が確認された種を対象に選定した結果、魚類 5 種、底生植物 25 種、両生類 2 種、陸上昆虫類 24 種、鳥類 21 種、植物 17 種の合計 94 種を注目すべき生物として抽出した。

表 2-2 注目すべき生物の選定基準

区分	指定基準	文献名	所管管理者	年度	内容	選定対象 < >内略号
法律・ 条令	1	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	環境庁	1992	絶滅のおそれのある野生動植物を指定し、保護、譲渡、輸出入等を規制	国内希少野生動植物<絶滅> (対象:植物,魚類,鳥類,両生類,爬虫類,哺乳類,昆虫類)
	2	文化財保護法, 文化財保護条例	文化庁 都道府県	1950	学術上価値の高い動植物等のうち重要なものを天然記念物に指定	国指定天然記念物<国天> 都道府県指定天然記念物<県天>
	3	自然保護法	環境庁	1964	国立・国定公園の風致の重要な構成になっている高山植物その他これに類する植物を指定	国立/国定公園特別地域内指定植物<公園>
環境省版 レッド データ ブック	4	改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-(汽水・淡水魚類,両生類,爬虫類,哺乳類,鳥類)	環境庁 環境省	2000 2002 2003	環境庁レッドリストの内容を再評価したもの	絶滅<EX>,野生絶滅<EW>, 絶滅危惧 類<CR+EN> 絶滅危惧 A類<CR> 絶滅危惧 B類<EN> 絶滅危惧 類<VU> 準絶滅危惧<NT> 情報不足<DD> 絶滅のおそれのある地域個体群<LP>
	5	改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-(植物)	環境庁	2000	環境庁レッドリストの内容を再評価したもの	絶滅<EX>,野生絶滅<EW>, 絶滅危惧 類<CR+EN> 絶滅危惧 A類<CR> 絶滅危惧 B類<EN> 絶滅危惧 類<VU> 準絶滅危惧<NT> 情報不足<DD> 絶滅のおそれのある地域個体群<LP>
環境省版 レッド リスト	6	環境庁レッドリスト無脊椎動物(昆虫類・陸産・淡水産貝類・クモ型類・多足類等・甲殻類等)	環境庁	2000	絶滅のおそれのある動物をIUCN(国際自然保護連合)が1994年に採択した新カテゴリーにより選定	絶滅<EX>,野生絶滅<EW>, 絶滅危惧 類<CR+EN> 絶滅危惧 A類<CR> 絶滅危惧 B類<EN> 絶滅危惧 類<VU> 準絶滅危惧<NT> 情報不足<DD> 絶滅のおそれのある地域個体群<LP>
大分県版 レッド データ ブック	7	レッドデータブックおおいだ 大分県の絶滅のおそれのある野生生物	大分県	2001	魚類,シダ植物,種子植物,蕨類,鳥類,両生類,爬虫類,哺乳類,頭索類,昆虫類,クモ類,甲殻類,陸・淡水産貝類を整理	野生絶滅<野生絶滅> 絶滅危惧 A類< A> 絶滅危惧 B類< B> 絶滅危惧 類< > 準絶滅危惧<準> 情報不足<情報不足> 絶滅のおそれのある地域個体群<地域個体群>
福岡県版 レッド データ ブック	8	レッドデータブック福岡 福岡県の絶滅のおそれのある野生生物	福岡県	2001	魚類,シダ植物,種子植物,蕨類,鳥類,両生類,爬虫類,哺乳類,頭索類,昆虫類,クモ類,甲殻類,陸・淡水産貝類を整理	野生絶滅<野生絶滅> 絶滅危惧 A類< A> 絶滅危惧 B類< B> 絶滅危惧 類< > 準絶滅危惧<準> 情報不足<情報不足> 絶滅のおそれのある地域個体群<地域個体群>
その他	9	自然環境保全基礎調査(すぐれた自然調査)	環境庁	1973	植物、野生動植物について希少性、固有性、特異性という視点で分布を調査	すぐれた自然調査対象種<自然>
	10	第2回自然環境保全基礎調査(特定植物群落調査、動物分布調査、河川調査)	環境庁	1973	学術上重要な群落、保護を必要とする植物群落を選定	特定植物群落,指標昆虫,特定昆虫, 絶滅のおそれのある種 学術上重要な種(両生類,爬虫類,魚類) 稀少種:(鳥類)<重要>,<危急>,<希少>

表 2-3 注目すべき生物の選定結果

生物	No.	科名	種名	主たる選定理由	種の選定根拠				生態系の特徴を表す種					
					希少性		良好な環境		生態系の特徴を表す種					
					環境庁 RDB 2000, 2002, 2003	大分県 RDB 2001	福岡県 RDB 2001	自然環境 保全調査	上位性	典型性	特殊性	移動性		
魚類 (5種)	1	アカザ	アカザ	希少	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	絶滅危惧 B類							
	2	スズキ	オヤニラミ	希少	準絶滅危惧	準絶滅危惧	準絶滅危惧							
	3	ハゼ	トビハゼ	希少	絶滅のおそれのある地域個体群	準絶滅危惧	絶滅危惧 B類							
	4	ドジョウ	ヤマトシマドジョウ	希少		準絶滅危惧								
	5	コイ	ヤリタナゴ	希少		準絶滅危惧	準絶滅危惧							
底生動物 (25種)	1	アマオブネガイ	イシマキガイ	希少			絶滅危惧 類							
	2		ヒロクチカノコガイ	希少			絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類						
	3	ウミニナ	クロヘナタリガイ	希少										
	4		シマヘナタリガイ	希少										
	5		フトヘナタリガイ	希少										
	6		ヘナタリガイ	希少										
	7	カワザンショウガイ	クリイロカワザンショウガイ	希少										
	8		ムシヤドリカワザンショウガイ	希少			絶滅危惧 類							
	9		ツバカワザンショウガイ	希少			絶滅危惧 B類							
	10		カワザンショウガイ	希少				準絶滅危惧						
	11	ワカウラツボ	ワカウラツボ	希少			絶滅危惧 B類							
	12	モノアラガイ	モノアラガイ	希少	準絶滅危惧									
	13	イワガニ	ウモレベンケイガニ	希少					準絶滅危惧					
	14		ヒメアシハラガニ	希少					準絶滅危惧					
	15		クシテガニ	希少					準絶滅危惧					
	16	スナガニ	ムツハリアケガニ	希少					準絶滅危惧					
	17		アリアケモドキ	希少			準絶滅危惧		絶滅危惧					
	18		カワスナガニ	希少	情報不足				絶滅危惧					
	19		シオマネキ	希少	準絶滅危惧		絶滅危惧 類		絶滅危惧					
	20		ハクセンシオマネキ	希少	準絶滅危惧		準絶滅危惧		準絶滅危惧					
	21	サナエトンボ	キイロサナエ	希少					絶滅危惧 類					
	22		アオサナエ	希少					準絶滅危惧					
	23	エソトンボ	キイロヤマトンボ	希少	絶滅危惧 類		絶滅危惧 B類							
	24	タイコウチ	ミスカマキリ	希少						準絶滅危惧				
	25	ゲンゴロウ	キペリマメゲンゴロウ	希少					絶滅危惧 類					
植物 (17種)	(特定種)													
	1	アカザ	イソボウキギ	希少			準絶滅危惧	絶滅危惧 類						
	2	ユキノシタ	タコノアシ	希少	絶滅危惧 類		絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類						
	3	アオイ	ハマボウ	希少			絶滅危惧 類	絶滅危惧 類						
	4	ツツジ	キシツツジ	希少			絶滅危惧 B類	絶滅危惧 A類						
	5	イソマツ	ハマサジ	希少	絶滅危惧 類		絶滅危惧 類	絶滅危惧 類						
	6	キク	フクド	希少			準絶滅危惧	絶滅危惧 類						
	7		フゼンノギク	希少	絶滅危惧 類		準絶滅危惧	絶滅危惧 A類						
	8		ウラギク	希少				絶滅危惧 類						
	9	カヤツリグサ	コウボウムギ	希少			準絶滅危惧							
	10	マツバラ	マツバラ	希少	絶滅危惧 類			絶滅危惧 B類						
	11	イワヒバ	イワヒバ	希少										
	12	マメ	イヌハシ	希少	絶滅危惧 類			絶滅危惧 B類						
	13	トウダイグサ	ノウルシ	希少	絶滅危惧 類			絶滅危惧 B類						
	14	ホロムイソウ	シバナ	希少	絶滅危惧 類			絶滅危惧 類						
	15	ユリ	コオニユリ	希少										
	16	ラン	シラン	希少	準絶滅危惧				準絶滅危惧					
	17		エビネ	希少	絶滅危惧 類									
	(その他特筆すべき種)													
	1	ナデシコ	ハマナデシコ	希少										
	2	アカザ	ホソバナハマアカザ	希少										
	3	バラ	イブキシモツケ	希少					準絶滅危惧					
	4	イネ	ノガリヤス	希少										
	鳥類 (21種)	1	カイツブリ	カンムリカイツブリ	希少			絶滅危惧 類	重要・危急					
		2	サギ	チュウサギ	希少	準絶滅危惧		準絶滅危惧	希少					
3		カモ	オシドリ	希少			絶滅危惧 類	準絶滅危惧	希少					
4			ヨシガモ	希少				準絶滅危惧	希少					
5			トモエガモ	希少	絶滅危惧 類		絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	自然					
6		タカ	ミサゴ	希少	準絶滅危惧		準絶滅危惧	準絶滅危惧						
7			ハイタカ	希少	準絶滅危惧		準絶滅危惧	準絶滅危惧						
8			ハチクマ	希少	準絶滅危惧		準絶滅危惧	準絶滅危惧						
9			サンバ	希少			準絶滅危惧	準絶滅危惧						
10		ハヤブサ	ハヤブサ	希少	絶滅危惧 類		絶滅危惧 類	絶滅危惧 類						
11		カモメ	コアジサシ	希少	絶滅危惧 類		絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類						
12			スグロカモメ	希少	絶滅危惧 類		絶滅危惧 B類	絶滅危惧 類						
13		カワセミ	ヤマセミ	希少					自然					
14			カワセミ	希少					自然					
15		ウ	カワウ	希少			絶滅のおそれのある地域個体群							
16		チドリ	コチドリ	希少			準絶滅危惧							
17			イカルチドリ	希少				絶滅危惧 類						
18			シロチドリ	希少			準絶滅危惧							
19		フクロウ	フクロウ	希少			絶滅危惧 類							
20		ウグイス	オオヨシキリ	希少										
21		ヒタキ	オオルリ	希少										
両性類・爬虫類・哺乳類 (2種)	1	アオガエル	カジカガエル	希少	情報不足	情報不足	準絶滅危惧	自然・重要						
	2	スッポン	スッポン	希少										
陸上昆虫 類等 (24種)	1	トタテグモ	キノボリトタテグモ	希少	準絶滅危惧									
	2	トンボ	オオキトンボ	希少	絶滅危惧 類		絶滅危惧 類							
	3	イトトンボ	ベニイトトンボ	希少	絶滅危惧 類			重要						
	4		モートンイトトンボ	希少			絶滅危惧 類							
	5	モノサシトンボ	ゲンバイトトンボ	希少	絶滅危惧 類									
	6	サナエトンボ	オジロサナエ	希少					重要					
	7	サシガメ	キイロサシガメ	希少				重要						
	8		ヒロウドサシガメ	希少			情報不足							
	9		キハネアシブトマキバサシガメ	希少				重要						
	10	ハナカメムシ	スズムシハナカメムシ	希少	絶滅危惧 類									
	11	ツチカメムシ	ハマベツチカメムシ	希少	準絶滅危惧									
	12	イトアメンボ	イトアメンボ	希少	絶滅危惧 類									
	13	カマキリモドキ	オオカマキリモドキ	希少				絶滅危惧 類	重要					
	14	ヒゲナガトビケラ	キンボシツツトビケラ	希少	準絶滅危惧									
	15	シジミチョウ	シルビアシジミ	希少				絶滅危惧 類	重要					
	16	シロチョウ	ツマクロキチョウ	希少	絶滅危惧 類		準絶滅危惧	絶滅危惧 類						
	17	ヤガ	シマキリガ	希少				絶滅危惧 類	重要					
	18	ホタル	ゲンジボタル	希少					自然・重要					
	19		ヘイケボタル	希少					自然					
	20	コガネグモ	コガネグモ	希少			準絶滅危惧							
	21	ゲンゴロウ	ヒコサンセスジゲンゴロウ	希少			準絶滅危惧	絶滅危惧 類						
	22	ツリアブ	クロバネツリアブ	希少			準絶滅危惧							
	23	タナグモ	Coelotes属の一種	希少			情報不足							
	24	カニグモ	Xysticus属の一種	希少			情報不足							

(選定基準は、表 2-2 を参照)

(2) 生態系の観点から注目すべき生物

前項「注目種」より、特に注目すべき種として、「上位性・典型性・特殊性・移動性」の4つの観点より選定した。

食物連鎖の頂点に位置する種およびその生息環境【上位性】

当該河川において典型的と考えられる生息生育環境および生物群集【典型性】

典型的では把握しにくい特殊な生息・生育環境およびそこに生育・生息する生物群集【特殊性】

広範囲にわたって移動する動物およびその経路【移動性】

表 2-4 生態系の観点から注目すべき生物の抽出

区間	環境区分	生態系注目種					
		植物	鳥類	両・爬・哺	陸上昆虫類	魚介類	底生生物
下流域 (河口域へ下流区間)	水域(汽水)		カワウ(典) カワセミ(典)				
	干潟	フクド(特) ハマサジ(特) ハマボウ(特) ホソバノハマアカザ(特) ヨシ(典) ハマヒルガオ ハエンドウ コウボウシバ ツルネ シバ	コチドリ(特) シロチドリ(特) イカルチドリ(特) ヨシガモ(典) コアジサシ(典) ユリカモメ(移) スクロカモメ(移)			アオギス(特) トビハヒ(典)、ウグイ(典) アユ(移)	ハクセンシオマネキ(特)
	草地	ハマナデシコ ウラギク	オオヨシキリ(特)		モートントンボ(典) コガネグモ(典)		
	水域(湛水)	タコノアシ(特)	カンムリカイツブリ(典) カワセミ(典)		イトアメンボ(典) ゲンジボタル(特) オジロサナエ(典) ダビドサナエ(典)	アカザ(特) ヤリタナゴ(特) ヤマトシマドジョウ(特) アユ(移) ウグイ(典)	モノアラガイ シマキリガイ
	河原	ツルヨシ(典)	コアジサシ(典) イカルチドリ(特)				
	草地	オギ(典)	オオヨシキリ(特)		モートントンボ(典) コガネグモ(典)		
樹木(河畔林・竹林)	メダケ(典)、ヤナギ林(典)	ヤマセミ(典) カワセミ(典)					
中流域	水域(瀬・淵)		チュウザギ(典) ユリカモメ(移)、ズグロカモメ(移) オシドリ(移) カワセミ(典)		ダビトサナエ(典) ギンボシツツビケラ(典) ゲンジボタル(特) ヘイケボタル(特)	ヤマトシマドジョウ(特) オヤニラミ(特) ヤリタナゴ(特) アユ(移) ウグイ(典) オイカワ(典)	—
	河原	キシツツジ(特) ツルヨシ(典) イヌハギ(典) マツバラシ(典) イワヒバ(特) イブキシモツク(典)	コチドリ(特) シロチドリ(特) イカルチドリ(特)	カジカガエル(典)		—	—
	草地	オギ(典)、シラン(典)、ノウルシ(典)			ツマグロキチョウ(典)	—	—
	樹木(河畔林・竹林)	メダケ(典)、ヤナギ林(典)	ヤマセミ(典) カワセミ(典)			—	—
中流域	水域(瀬・淵)	マツバラシ(典) イワヒバ(特) イブキシモツク(典) イヌハギ(典) キシツツジ(特) ネコヤナギ(典)	イカルチドリ(特) チュウザギ(典) オシドリ(特) カワセミ(典)	カジカガエル(典)	ダビトサナエ(典) ギンボシツツビケラ(典) ゲンジボタル(特) ヘイケボタル(特)	ヤマトシマドジョウ(特) アカザ(特) オヤニラミ(特) アユ(移) カワヨシノボリ(移) ウグイ(典) オイカワ(典) カワムツ(典)	モノアラガイ
	草地	オギ(典)、ノウルシ(典) シラン(典) コオニユリ(典)			オオキトンボ(典) ツマグロキチョウ(典)		
	樹木(河畔林・竹林)	メダケ(典)、ヤナギ林(典)	ヤマセミ(典) カワセミ(典)				
上流域 耶馬溪谷	水域(瀬・淵)	タコノアシ(特) イブキシモツク(典) オオチャルメルソウ(典) カワチシヤ(典) カワタバコ(典) サツマイナモリ(典) ツクシシヨウジョウバカマ(典)	カワウ(典) オシドリ(移) カワセミ(典)	カジカガエル(典) ダゴガエル(典) スッポン(典)	ゲンジボタル(特) ムカシヤンマ(特) トウキョウヒメハニミョウ(典) アオサナエ(典) グンバイトンボ(典) マルバネヒメカゲロウ(典)	ヤマトシマドジョウ(特) アカザ(特) オヤニラミ(特) アユ(移) ウグイ(典) オイカワ(典) カワムツ(典)	
	草地	キキョウ(典) センブリ(典)			ピロウドサシガメ(典)		
	樹木(河畔林・竹林)	メダケ(典)、ヤナギ林(典) エビネ(典) ミヤマズラ(典) キエビネ(典) タイリンアオイ(典) シュンラン(典) コクラ(典) サオハヤラン(典) シノブ(典) コバノミツバツツジ(典) キンラン(典)	ヤマセミ(典) カワセミ(典) サンショウウイ(典)		オオムラサキ(典) ヨツモンカメムシ(典) ヨコツナサシガメ(典) ツマグロキチョウ(典) オオホシオナガバチ(典) クロバアカサシガメ(典) コホシダイコクゴガネ(典) ワラコマダラシジミ(典) オオツバメエタシヤク(典)		

赤字：重要性  
上：上位性 典：典型性  
移：移動性 特：特殊性

表 2-5 生態の観点からの注目すべき生物の選定理由

視点	生物分類	種名	選定理由
上位性	鳥類	ハイタカ, オオタカ	冬鳥として平野から山地に飛来し、小型鳥類を主食とする猛禽類。河川水辺の国勢調査での確認数が多い猛禽類であるため。
		ミサゴ	沿岸域や河川のような開放水面に生息する猛禽類。水域では水中の魚類を捕獲する。河川水辺の国勢調査での確認数が多い猛禽類であるため。
典型性	植物	メダケ, ヨシ, ツルヨシ, オギ	水際に生育し、いずれも山国川水系（直轄区間）の優占する植物であるため。
		ヤナギ類	河畔林としていたるところに生育しているため。
	魚類	オイカワ, カワムツB型, ウグイ	河川水辺の国勢調査において、河口を除きほとんどの地点で確認され、優占種であるため。
		マハゼ, トビハゼ	干潮域の砂・泥底を好むハゼ科の魚類。干潮特有の干潟を代表する魚類と考えられる。
	陸上昆虫類	モートントンボ, ゲンバイトンボ, コガネグモ, オジロサナエ, ダビドサナエ, オジロサナエ, ツマグロキチョウ	トンボ類は幼虫期を水中で過ごし、成虫は陸上昆虫等を捕食し、産卵を水辺で行うため、ほぼすべて水辺と関連がある。このうち、河川環境と密接に関連しており、堤内地と堤外地の環境をまたいで生活している種として左記が考えられる。
	両生類	カジカガエル, ダゴガエル, スッポン	清透な溪流に生育する。生活史のほとんどを水中・水際に過すため、上流域の溪流環境を代表すると考えられる。
	鳥類	カワウ, ヨシガモ, コアジサシ	冬鳥として内湾や河川中下流に渡来する。水域を採餌場所とし、河畔林や低水敷きを休息に利用する。
		カワセミ, ヤマセミ	留鳥であり、カワセミは河川中下流域を中心に、ヤマセミは山間溪流部で生息・繁殖する。河川沿いの土崖で繁殖し、水域で採餌、河畔林や草地等で休息するという河川環境への依存度が高い種である。
		カワガラス	留鳥であり、山間溪流の水域、低水敷きでの採餌・休息する。滝の裏や岩の隙間のほか、橋の裏や砂防ダムの穴などにも営巣する。
	特殊性	魚類	アオギス
オヤニラミ, アカザ, ヤマトシマドジョウ			清透な、緩やかな流れの流水地や湧水地などに生息し、平瀬や淵尻、水路などの小砂礫底に産卵する。水の汚れに弱く、有機物がたまるような場所では生息できない。
底生動物		ハクセンシオマネキ	泥を若干含んだ砂地で、干潮時干潟が露出した後水はけが良く、底質がやや固い所に生息する。干潟等の埋立てや汚染により、その生息域が減少し、現在特定地域に生息している。
陸上昆虫類		ゲンジボタル, ヘイケボタル, ムカシヤンマ	ゲンジボタルの生息には、幼虫の餌となるカワニナの生息が必要であり、さらに、水際が土堤であることが河畔林が存在することが生息条件と考えられている。現在ではこのような条件が揃うことは少ないため、特殊性に列挙した。
鳥類		コチドリ, シロチドリ, イカルチドリ	低水敷の砂礫・礫河原に生息し、採餌・休息・繁殖のすべてに河川敷を利用する。山国川水系では、礫河原が中流部に存在することから、特殊性に列挙した。
植物		ハマサジ, フクド, ホソバノハマアカザ	汽水の冠水をうける塩湿地特有の植物であり、山国川下流のごく一部でしか生育が確認されていない。
移動性	魚類	アユ	川で産卵し、秋に海に降下し、春に遡上してくる回遊性魚。漁獲対象ともなっている。15～30cmの中型サイズである。回遊性であるため移動性に選定した。
		カワヨシノボリ	全国の河川に広く分布するハゼ科の魚。アユと同じ回遊性魚であるが、遡上時2cm程度の小型サイズである。回遊魚であるため移動性に選定した。
	鳥類	ユリカモメ, ズグロカモメ, オシドリ	冬鳥で、越冬のため山国川の河口干潟や各堰の湛水域に集団で飛来し、餌場を求めて山国川の河口から中流域にかけて移動するため移動性に選定した。

## 2 - 3 特徴的な河川景観や文化財等

山国川流域には、すぐれた自然景観や文化財が存在し、国及び県はこれらの地域の自然環境の保全を図るべく、山国川流域の一部を「<sup>やまのくに</sup>山国川流域自然公園」に指定している。

山国川中上流域の地形は、<sup>やまのくに</sup>耶馬溪溶岩、<sup>あそ</sup>筑紫溶岩、<sup>やまのくに</sup>耶馬溪層等からなる丘陵地形で構成されている。太古の昔からの風雨により差別侵食を受け、長き年月を経て山国川沿いを中心に奇岩・秀峰が点在する<sup>やまのくに</sup>耶馬溪は、そそりたつ岩峰、木々と美しい川の流が見事に調和したわが国有数の景勝地であり、特に、「<sup>あお</sup>青の洞門」と「<sup>あき</sup>秋の紅葉」は有名である。

また、山峡の上流域には、川の侵食作用によって生じた岩陰・半洞窟に縄文時代の生活跡があり、下流域の沖積地には弥生時代の遺跡を多く見ることができる。

さらに、流域内を<sup>ぶぜん</sup>豊前街道、日田往還が通ることから、<sup>らかんじ</sup>羅漢寺を初めとして由緒ある神社仏閣や、<sup>やまのくに</sup>耶馬溪橋、<sup>あそ</sup>馬溪橋、<sup>らかんじ</sup>羅漢寺橋の石橋が建設されている。

### 2 - 3 - 1 文化

#### (1) 記念物（史跡・名勝及び、天然記念物）

山国川流域には、国指定の史跡 4 物件、名勝 1 物件、天然記念物 4 物件、県指定の史跡 5 物件、天然記念物 10 物件がある。

特に、文化庁に指定されている『名勝耶馬溪 山国川筋の景』に位置する山国川は、<sup>やまのくに</sup>耶馬溪溶岩、<sup>あそ</sup>筑紫溶岩、<sup>やまのくに</sup>耶馬溪層等からなる丘陵地が、太古の昔より風雨にさらされ、差別侵食を受け、奇岩・秀峰が見られる独特の景観を作り出し、<sup>らかんじ</sup>頼山陽がその景観に感嘆し、山国谷を「<sup>やまのくに</sup>耶馬溪山天下無」と賞賛し、天下の名勝耶馬溪として全国に知られるようになった。また、<sup>あお</sup>青の洞門は、<sup>きくちかん</sup>菊池寛の小説「<sup>あお</sup>恩讐の彼方に」の舞台としても有名である。

表 2-6 山国川流域の記念物（史跡・名勝及び天然記念物）

国指定の記念物

No	種別	名称	指定年月日	所在地	備考
1	史	福沢諭吉旧居	昭和46. 6. 22	大分県中津市	
2	史	大ノ瀬官衙遺跡	平成10. 12. 8	福岡県上毛町	
3	史	穴ヶ葉山古墳	昭和14. 9. 7	福岡県上毛町	
4	史	友枝瓦窯跡	大正11. 10. 12	福岡県上毛町	
5	名勝	耶馬溪	大正12. 3. 7 昭和11. 7. 14	大分県中津市耶馬溪町・ 大分県中津市本耶馬溪町 他	
6	天	耶馬溪猿飛の甌穴群	昭和10. 6. 7	大分県中津市山国町	
7	天	鷹巣山	昭和16. 8. 1	大分県中津市山国町	
8	天	犬ヶ岳ツクシシャクナゲ自生地	昭和40. 6. 4	大分県中津市耶馬溪町	
9	天	大岩扇山	昭和10. 6. 7	大分県玖珠町	

注) 史 : 史跡  
 名勝 : 名勝  
 特天 : 特別天然記念物  
 天 : 天然記念物

県指定の記念物

No	種別	名称	指定年月日	所在地	備考
1	史	植野貝塚	昭和32. 3. 26	大分県中津市	
2	史	棒垣遺跡	昭和57. 3. 30	大分県中津市	
3	史	川平間歩の跡	昭和59. 3. 30	大分県中津市三光	
4	史	青の洞門	昭和17. 8. 10	大分県中津市本耶馬溪町	
5	史	粉洞穴	平成 2. 3. 29	大分県中津市本耶馬溪町	
6	天	三角池の水生・湿地植物群落	昭和55. 4. 8	大分県中津市	
7	天	長谷寺境内林	昭和51. 3. 30	大分県中津市三光	
8	天	田口のイチイガシ林	昭和51. 3. 30 昭和59. 3. 30	大分県中津市三光	
9	天	高平のイワシデ林	昭和54. 5. 15	大分県中津市本耶馬溪町	
10	天	千本カズラ	昭和28. 4. 20	大分県中津市耶馬溪町	
11	天	ゲンカイツツジ	昭和32. 3. 26	大分県中津市耶馬溪町	
12	天	キシツツジ	昭和32. 3. 26	大分県中津市耶馬溪町	
13	天	ブナの原生林	昭和28. 4. 20	大分県中津市山国町、 大分県中津市耶馬溪町	
14	天	鹿嵐山のツクシシャクナゲ群落	昭和35. 3. 22	大分県宇佐市院内町	
15	天	野平のミツガシワ自生地	昭和48. 3. 20	玖珠郡玖珠町古後	

注) 史 : 史跡  
 名勝 : 名勝  
 天 : 天然記念物

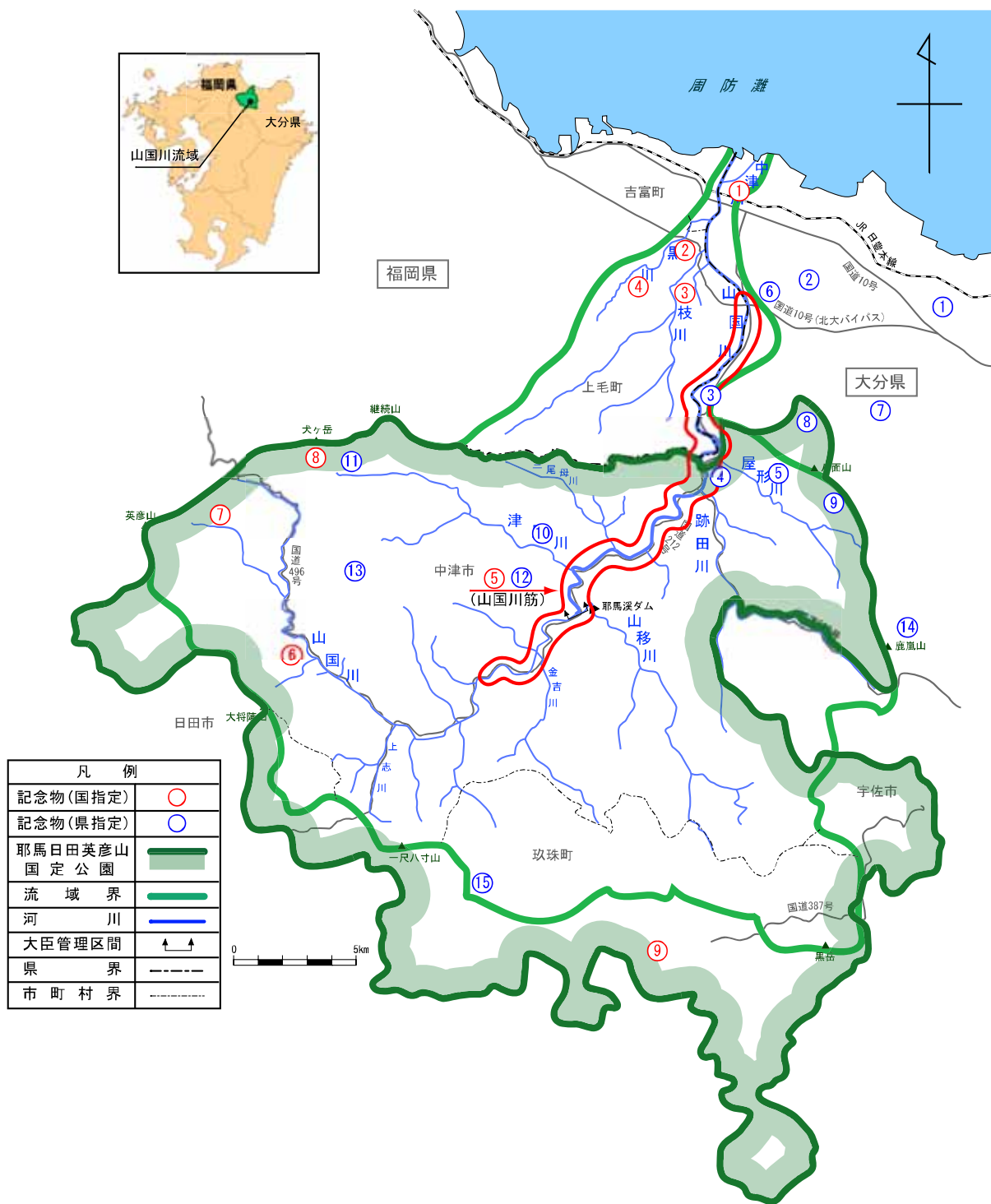


図 2 1 記念物（史跡・名勝・天然記念物）位置図

#### 5 <sup>きょうしゅうほう</sup>競秀峰の景 (国 名勝耶馬溪) 河口から 16km

名勝耶馬溪は、県の西北部に位置する下毛郡を中心に東西約40kmの広範囲に及び通称「耶馬溪」と呼ぶ本、羅漢時、東、津民、奥、深、裏、麗谷、椎屋、南の各耶馬溪景域の中に存在する山岳、岩峰、河川、瀑布などの代表の66ヶ所の総称である。

この耶馬溪は、火山活動にともなう耶馬溪層や新耶馬溶岩などが差別侵食により生じた奇岩、秀峰の風景地である。



#### 6 耶馬溪<sup>さるとび</sup>猿飛の甌穴群(国天然記念物)河口から約 42km

山国川上流域の中鶴から押坂に至る間の河床の青緑色変朽安山岩(プロピライト)が侵食作用を受けて生じた大小200個余りの甌穴(ポットホール)とよばれる甌状の穴。

長期間にわたって河床の上を転がりつつ運搬された丸みをもった大、中、小の礫が一定の位置に滞まって、河水の流速に応じて回転したり、揺り動かされりし、礫が河床を侵食して半球形の穴が生じたものである。



#### 4 青の洞門 (県史跡)

菊池寛の小説「恩讐の彼方に」で有名な青の洞門。今から250年ほど前に、禅海和尚がノミと槌だけで30年もの永い歳月かけて完成させた。また、洞門の上にそびえ立つ「競秀峰」は8つの岩が連なっており、本耶馬溪を代表する景勝地である。



#### 12 キシツツジ (県天然記念物)

この種は、河川上流の山間部の川岸で、水流にごく接近した地帯にのみあり、この地に生育が知られたのは昭和7年である。

わが国での南限であるが、自生については栽培種からの発芽生育の件も考えられるとして、検討の余地を残している。





(2) 文化財

山国川流域には、国指定文化財 6 物件、県指定文化財 33 物件、及び多数の市町指定文化財等、多くの文化財が存在する。

表 2-7 山国川流域の指定文化財

国指定の有形・無形・民俗文化財

No	種別	名称	指定年月日	所在地	備考
1	重文	神尾家住宅	昭和50. 6.23	大分県中津市山国町	建造物
2	重文	薦神社神門	昭和63.12.19	大分県中津市	建造物(薦神社)
3	重文	木造女神騎牛像		福岡県吉富町	八幡古表神社
4	重文	木造薬師如来坐像		福岡県吉富町	鈴熊寺
5	重有民文	傀儡子四七躰		福岡県吉富町	八幡古表神社
6	重無民文	細舞昇・神相撲		福岡県吉富町	八幡古表神社

注) 重文 : 重要文化財  
 重有民文 : 重要有形民俗文化財  
 重無民文 : 重要無形民俗文化財

県指定の有形・無形・民俗文化財

No	種別	名称	指定年月日	所在地	備考
1	有文	永岡家刀(銘 平鎮種)	昭和55. 4. 8	大分県中津市	
2	有文	徳永家槍	昭和58. 4.12	大分県中津市	
3	有文	銅造観音菩薩立像	昭和30. 5.27	大分県中津市三光	長谷寺蔵
4	有文	深水家遺跡出土遺物	平成 2. 3.29	大分県中津市三光	
5	有文	古羅漢国東塔	昭和49. 3.19	大分県中津市本耶馬溪町	
6	有文	木造地藏菩薩坐像	昭和51. 3.30	大分県中津市本耶馬溪町	雲谷寺観音講中蔵
7	有文	木造菩薩形坐像	昭和51. 3.30	大分県中津市本耶馬溪町	雲谷寺観音講中蔵
8	有文	屋成家墓地国東塔	昭和53. 3.31	大分県中津市本耶馬溪町	
9	有文	耶馬溪橋	昭和56. 3.31	大分県中津市本耶馬溪町	本耶馬溪町
10	有文	妙見堂木造妙見菩薩坐像 附 男女神像二軀・妙見菩薩像一軀 阿弥陀如来像一軀 菩薩形神像一軀	昭和59. 3.30	大分県中津市本耶馬溪町	青区蔵
11	有文	古羅漢石造観音菩薩坐像 附 木製五輪塔(1) 紙本墨書光明真言種子1紙 納入人齒 (右上顎第一臼歯)1本 石造仏像(8)	平成 2. 3.29	大分県中津市本耶馬溪町	
12	有文	羅漢寺橋	平成 3. 3.26	大分県中津市本耶馬溪町	本耶馬溪町
13	有文	檜原山の梵字鳥居	平成15. 3.31	大分県中津市耶馬溪町	正平寺
14	有文	新宮権現社鰐口	昭和49. 3.19	大分県中津市山国町	新宮権現社蔵
15	有文	新宮権現社懸仏(15)	昭和50. 3.28	大分県中津市山国町	
16	有文	木造十二神将	昭和49. 3.19	大分県宇佐市院内町	龍岩寺蔵
17	有文	蓮華寺跡五輪塔	昭和51. 3.30	大分県宇佐市院内町	
18	有文	滝貞石幢	昭和55. 4. 8	大分県宇佐市院内町	滝貞区
19	有文	覚正寺支坊石幢	昭和57. 3.30	大分県宇佐市院内町	
20	有文	鳥居橋	平成 4. 3.27	大分県宇佐市院内町	院内町
21	有文	銅造厨子入菩薩形立像	平成 4. 3.27	大分県宇佐市院内町	
22	有文	御沓橋	平成10. 3.20	大分県宇佐市院内町	院内町
23	有文	末廣神社本殿(神殿)及び覆屋 附 棟札二枚	平成 8. 3.29	大分県玖珠町	末廣神社
24	有文	末廣神社栖鳳桜	平成 8. 3.29	大分県玖珠町	末廣神社
25	有文	八幡古表神社の鉄製鰐口		福岡県吉富町	八幡古表神社
26	有民文	織部燈籠	昭和34. 3.20	大分県中津市	個人所蔵
27	無民文	北原人形芝居	昭和32. 3.26	大分県中津市	北原人形芝居保存会
28	無民文	中津祇園	平成16. 3.31	大分県中津市	中津祇園祭保存協議会
29	無民文	桧原マツ	昭和58. 4.12	大分県中津市耶馬溪町	桧原まつ保存会
30	無民文	覚円寺	昭和44	福岡県上毛町	
31	無民文	輪藏		福岡県上毛町	覚円寺
32	無民文	木造薬師如来坐像		福岡県上毛町	覚円寺
33	無民文	松尾山お田植祭	昭和51. 4.24	福岡県上毛町	

注) 有文 : 有形文化財  
 有民文 : 有形民俗文化財  
 無民文 : 無形民俗文化財

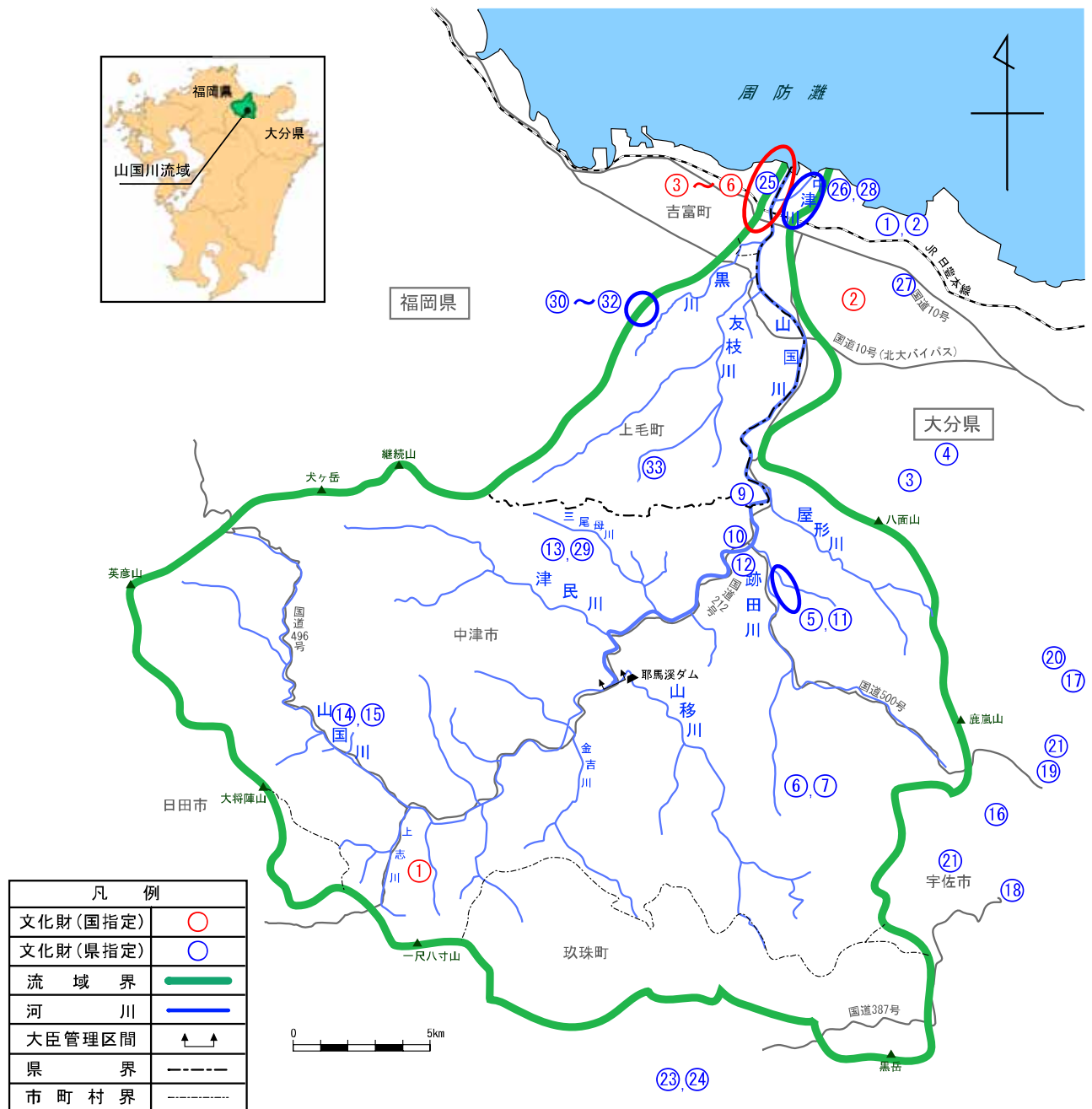


図 2 - 2 山国川流域の指定文化財位置図

### 9 耶馬溪橋（県有形文化財）

山国川にかかる耶馬溪橋(通称オランダ橋)は、長崎式石積みによるわが国唯一の石造八連アーチ橋で、長さ116mあり、観光道路として大正12年に竣工し、昭和56年県の有形文化財に指定されている。



### 12 羅漢寺橋（県有形文化財）

「名勝犬走り景」の上流約150mあたりに、山国川の本流をまたいで全長89m、一つの脚経間が26.8mの羅漢寺橋が架かっている。この橋の特徴は、脚経間と高さの割合が5.0という非常に扁平なことで、それだけに応力が難しく、架設も困難をきわめたようである。



資料写真：関係市町ホームページより抜粋。

## 2-3-2 歴史

### (1) 舟運

尾張名古屋の呉服商菱屋平七(吉田重房)の『筑紫紀行』享和元(1801)年4月21日の条に、次のような記事が散見される。

「さてさい川を歩渡りす。水浅うして川はゞ広し。三丁計り行てこひのまる(小犬丸)人家五、六十軒あり。村を離るれば中津川なり。川向かひに中津の城の堀・櫓見ゆ。是より川堤を一丁ばかり上がりて舟渡しあり。さて渡れば中津なり」。

この紀行文によると、19世紀当初、橋が架かっていなかった佐井川を、旅人は、浅瀬を歩いて渡し、山国川を渡し舟で渡っており、平七は、下往還を通り、広津の舟渡しを利用して中津町へ入っていたようである。

山国川河口域には、当時、舟渡しは、「広津渡し」しかなく、嘉永(1846～53年)の頃、小犬丸の治助が、渡し賃を取って「小犬丸渡し」を始めた。

英彦山の山腹野峠に源を発し、沖代平野を貫流して周防灘に注ぐ山国川は、古代には「御木川」と呼ばれていた。その後、川の名は高瀬川・広津川・小犬丸川などと、それぞれの地域で俗称されていたが、明治8(1875)年12月23日、小倉県(県令小幡高政)は一旦「中津川」と決まりかけていた総名を「山国川」と確定し、布達した。

また、江戸時代、山国川の河口域は「高瀬川」と呼ばれ、小祝島の三角州で分流する中津城側を「表川」・「中津川」、京泊側を「裏川」「小犬丸川」と呼んでいた。

文政10(1827)年、山国川の掘り下げ工事が行われ、樋田(中津市本耶馬溪町)から中津日田蔵までの川舟通船が実現し、川舟1隻は五石積で運賃は米1石につき銀1匁6分2厘でした(日田・広瀬家文書)。また、山国川中流域からの材木川流しも行われたとのことである。

### 広津渡しと小犬丸渡し



【広津渡し】



【小犬丸渡し】

### 史跡 小犬丸 広津

小犬丸の舟渡しは、嘉永の頃に小犬丸の治助という人が始めたもので、渡し代金として三文を取っていたことから、「小犬丸の三文渡し」とも呼ばれていた。小犬丸渡しができる前までは、広津渡しを使って中津に出かけており、兩岸を繋いだ大綱をつたって小舟で往復していたそうである。

明治になってから小犬丸に、小舟の上に板を張り、それをいくつも繋いだ「舟橋(ふなばし)」と呼ばれる簡単な橋ができるまで、中津への交通手段として幅広く使われていた。

また当時は、中津城下への出入りや運行規制も厳しく、小犬丸渡しを利用できたのは、上級藩士や通行手形のある人だけでした。下級藩士や旅人は、広津渡しを利用して、城下の外堀を遠回りするように城下町へ入っていた。

## (2) 京泊港と遠見番所

小笠原中津藩の浦港は、中津港と京泊港であった。中津港は、中津町の堀川下小路浦港のことで、中津城の北の運上場の所きょうどまりにあり、山国川の河港でもあった中津港は、干潮時は水深が比較的浅く、100～200石積の10反帆程度たんぼの船しか停泊できなかった。一方、高浜の京泊は、水深が「三尋半」ひろはん(6.3m、『伊能忠敬測量日記』)と深く、中型や大型の船が停泊できた。この「京泊」という港は、もと入り江になっていた所で、京坂往復の商船が停泊していたところからつけられた港の名前であり、他に九州では、玄海町(福岡)・肥前町(佐賀)せんだいし・川内市(鹿児島)などに京泊という港名がある。

### 遠見番所跡 史跡 高浜 山国川河口西側

寛永15(1638)年、中津藩主小笠原長次公が、島原・天草の乱に出陣した際に、その留守中の番をするため、高浜の京泊港(現、埋立地)の先端に遠見番所を造ったと言われている。

その後は、番役人を置き、その番小屋が番所と呼ばれ、御番所の内側の京泊港は、江戸時代には京坂商船



の停泊所であった。また、寛文9(1669)年の大洪水までは、高浜と中津市小祝島は陸続きで、白砂青松の美しい海岸で、和歌にも詠まれるほどの名勝であった。

### 番所踊り 吉富町指定 民俗文化財 無形 平成4年11月16日 小犬丸 八幡古表神社

「番所踊り」の由来は、島原・天草の乱に中津藩が出陣し、多数の死傷者を出したため、その供養踊りとして始まったとされている。

寛永15(1638)年、高浜海岸に遠見番所が造られ、番所の広場の供養碑の周りで、小祝の人たちが参加して踊っていた。また、一説には番所にあまり人が寄りつかないため、番所役人が女性や子どもを集め、菓子などを与えて踊らせていたとも伝えられ。現在では、喜連島や高浜の婦人たちにより「番所踊り保存会」が組織され、普及・伝承活動を行っている。



### 2-3-3 イベント・観光

#### (1) イベント

山国川流域では、多くのイベントが行われている。

特に、山国川流域では、「新たな流域連携」の実現に向け、「豊前の国建設倶楽部（平成11年9月NPO法人登録）」が中心となって、県境の川である山国川を共通項として、県境綱引き大会を初めとした流域連携を考えるイベントやコンサートを実施、ミニFMラジオ局の開設、流域ガイドブックの作成、山国川「交境」曲（CD）作成、清掃活動及びボイ捨て防止の啓蒙活動、山国川流域観光ガイドマップ作成など、様々な活動を展開している。

耶馬溪ダムでは、地域住民がダムに親しむイベントとして、「耶馬溪ダム湖畔まつり」を毎年7月の最終土曜日に開催し、花火大会、水上スキー教室などを行っている。

表 2-8 山国川流域市町の主なイベント(1)

流域内市町	No	イベント名称	開催時期	概要 (場所)
中津市	1	二ノ丸公園桜まつり	4月上旬	二ノ丸公園
	2	たにしまつり	5月中旬(3年に一回)	奥平神社
	3	中津祇園	7月下旬	中津神社、闇無兵神社
	4	寺町とうろうまつり	8月9日	寺町
	5	鶴市花傘鉾まつり	8月下旬	鶴市神社
	6	福澤諭吉記念祭(高等学校弁論大会)	11月中旬	文化会館(主会場)
	7	ゆきちまつり	11月中旬	中央公園
	8	さいすくい	11月下旬日曜日	貴船神社
	9	かます餅まつり	11月下旬	貴船神社
	10	城下町なかつのひなまつり	2月中旬～3月中旬	諸町周辺
旧三光村	11	泥田パレーボール大会	6月第1日曜日	佐知の田んぼ
	12	SAN.SUN.カーニバル	8月上旬	伊三光ホップセンター特設会場
	13	斧立神社神幸祭	10月上旬	白木・上田・諫山・佐知
旧耶馬溪町	14	花まつり	5月	羅漢寺
	15	禅海ふるさと夏まつり	8月中旬	青の洞門
	16	禅海ふるさと秋まつり	11月上旬	禅海ふれあい広場
	17	カウントダウン花火 禅海太鼓	12月31日	羅漢寺
	18	青の洞門観光どんど	2月11日	青の洞門河川公園
旧耶馬溪町	19	桧原マツ	4月第2日曜日	檜原山正平寺
	20	深耶馬溪ゴールデンウォーク	4月29日	麗谷
	21	犬ヶ岳シャクナゲ鑑賞登山	5月第2日曜日	犬ヶ岳
	22	ホタル鑑賞コンサート	6月第1土曜	溪石園
	23	もみじ育樹ツアー	6月下旬	広域農道
	24	6.26露天風呂の日	6月26日	町内温泉(10箇所)
	25	耶馬溪ダム湖畔まつり	7月最終土曜日	耶馬溪ダム
	26	カッパ祭(宮園楽)	7月29日	雲八幡神社
	27	カッパ祭(樋山路楽)	9月21・22日	伊勢山大神宮、二瀬天満宮
	28	やんさ祭り	12月2日	大野八幡社

表 2-8 山国川流域市町の主なイベント(2)

流域内市町	No	イベント名称	開催時期	概要(場所)
旧山国町	29	コアやまくにインラインスケート	4月	コアやまくに
	30	槻木神社春祭り	5月5日	槻木神社
	31	憩いの森歩こう会	5月5日	奥耶馬溪憩いの森
	32	ほたるまつり	6月上旬	道の駅やまくに
	33	菅原天満宮大祭	7月15日	菅原天満宮
	34	貴船神社大祭	8月1日	貴船神社
	35	やまくにボンフェスタ	8月15日	コアやまくに
	36	大歳祖神社大祭	9月1日	大歳祖神社
	37	カップまつり	9月15日	亀岡八幡宮
	38	神幸祭	9月15日	溝部地区
	39	万葉のふるさとまつり	10月下旬	コアやまくに
	40	コアやまくにスケートリンク	11月中旬	コアやまくに
	41	コアやまくにスケートリンク X'masアイススケートショー	12月下旬	コアやまくに
	42	コアやまくにスケートリンク カウントダウン	12月31日	コアやまくに
43	コアやまくにスケートリンク バレンタイン特別企画	2月中旬	コアやまくに	
吉富町	44	子供風揚げ大会	1月	
	45	キッツフェスティバルin吉富	3月	
	46	よしみワッショイ春祭り	4月	
	47	吉富さつき展	5月	
	48	細男舞神相撲	8月	八幡古表神社(4年に1回)
	49	乾衣祭	8月	八幡古表神社
	50	吉富夏祭り	8月	
	51	御神幸	9月	八幡古表神社
	52	献水神事と水占い	10月	壺神社
上毛町	53	さくら祭	3月下旬	牛頭天王公園でのさくら祭
	54	とべら祭	7月7日	
	55	新吉まつり	8月下旬~9月上旬	株式会社ユニシア九州グランド
	56	竹灯籠祭り	9月下旬	さわやか市たいへい
	57	ぎゅうらし祭	11月第1日曜	上毛町総合グランド

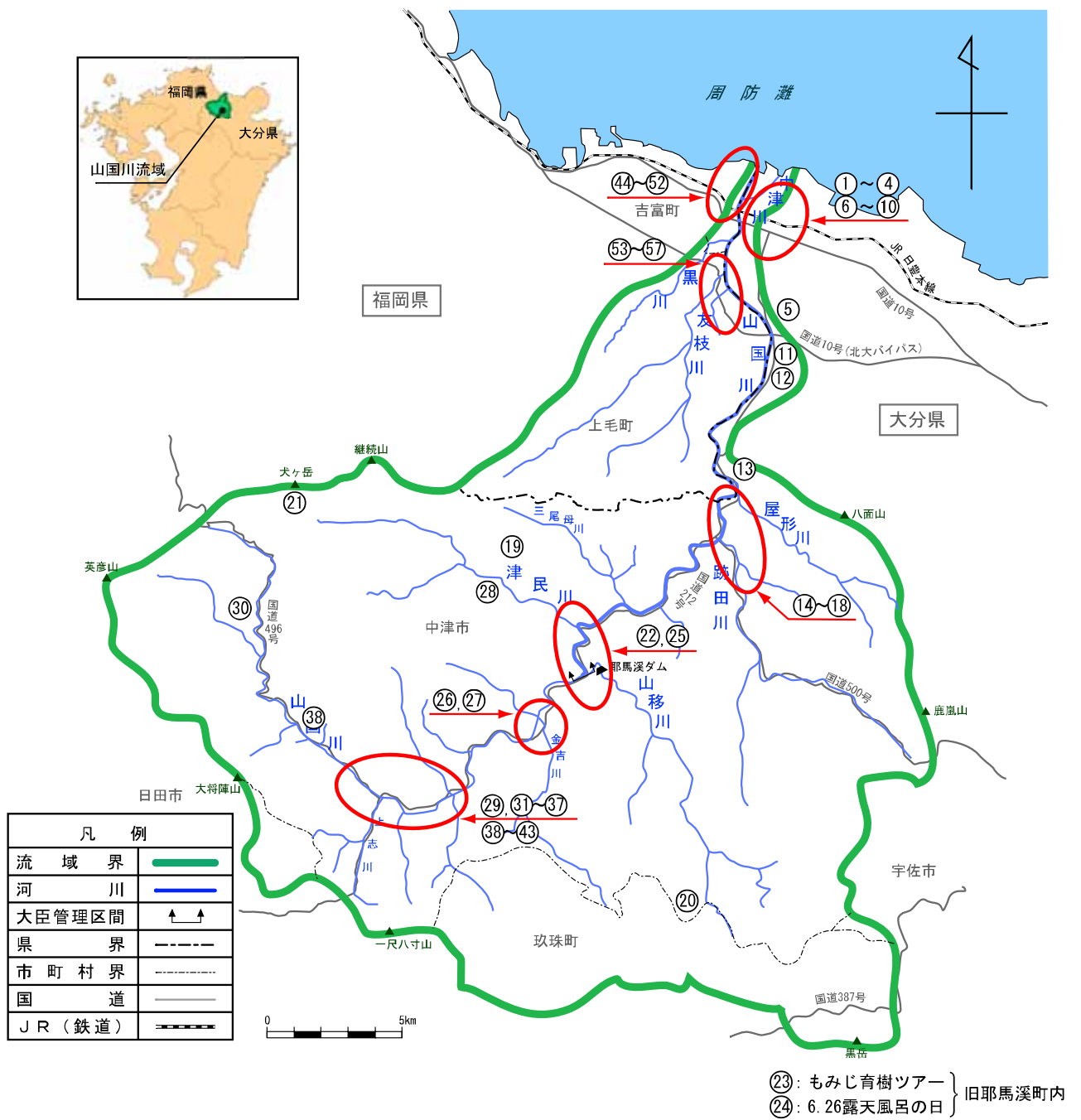


図 2 - 3 主なイベント位置図



### 3 中津祇園

中津祇園は、十万石の城下町中津を代表する祭りで、闇無浜(くらなしはま)神社を中心として行われる「下(しも)祇園」と中津神社を中心として行われる「上(かみ)祇園」から成り立っている。その歴史は古く、570年以上の伝統を誇る。

毎年7月下旬の金、土、日曜日の3日間、あわせて12台の祇園車(ぎおんぐるま)と呼ばれる漆塗りの華麗な山車と闇無浜神社、中津神社の御神輿が城下町をまわり、辻々では、祇園車の上で踊り等が披露されその賑やかさから、九州三大祇園祭と称されている。



### 18 青の洞門観光どんど

「どんど焼き」は、本耶馬溪町での風物詩となっている。お札や正月の飾りなどの縁起物を燃やし五穀豊穡(ほうじょう)、無病息災を願う「どんど焼き」。本耶馬溪町の「青の洞門・河川公園」で2月11日に開催される「青の洞門観光どんど」はごう音を立てて燃える炎と「青の洞門」のコントラストが美しい。



### 25 耶馬溪ダム湖畔まつり

耶馬溪ダムでは、地域住民がダムに親しむイベントとして、「耶馬溪ダム湖畔まつり」を毎年7月の最終土曜日に開催し、花火大会、水上スキー教室などを行っている。



)資料写真：関係市町ホームページより抜粋。

## (2) 観 光

耶馬日田英彦山国定公園に位置する耶馬溪は、そそりたつ岩峰と木々そして川の流が見事に調和したわが国有数の景勝地であり、「青の洞門」と「秋の紅葉」は有名である。

この景勝地「耶馬溪」生かした観光産業も重要な位置を占めており、年間 170 万人近くの観光客が訪れる大分県の代表的な観光地である。観光客の数は年々増加の傾向にあり、その約半数は、秋の紅葉の季節に山国川流域を訪れている。

また、<sup>やまけい</sup>耶馬溪鉄道廃線跡を利用したサイクリングロードが河川沿いを通っており、観光コースとして、また、通勤・通学路として使用されている。

表 2-9 山国川流域の主な観光、レクリエーション施設

観光地、レクリエーション施設名	関係市町村、河川名
中津城跡(中津公園、中津北公園) 福沢諭吉旧邸	中津市(中津川)
風水園、洞門キャンプ場 青の洞門(本耶馬溪)、自然水族館	本耶馬溪町(山国川)
羅漢寺、西谷川の河川プール	本耶馬溪町(跡田川、西谷川)
耶馬溪ダム(貯水池、河川公園)、溪石園 鳴良、かやのき、深耶馬溪、耶馬溪温泉 一目八景、しいたけ村	耶馬溪町(山移川)
津民川の河川プール、耶馬溪グリーンパーク	耶馬溪町(津民川)
耶馬溪町青少年旅行村	耶馬溪町(金吉川)
守実温泉、奥耶馬溪憩いの森キャンプ場	山国町(山国川)
友枝瓦窯跡、穴ヶ葉山古墳	大平村(友枝川)

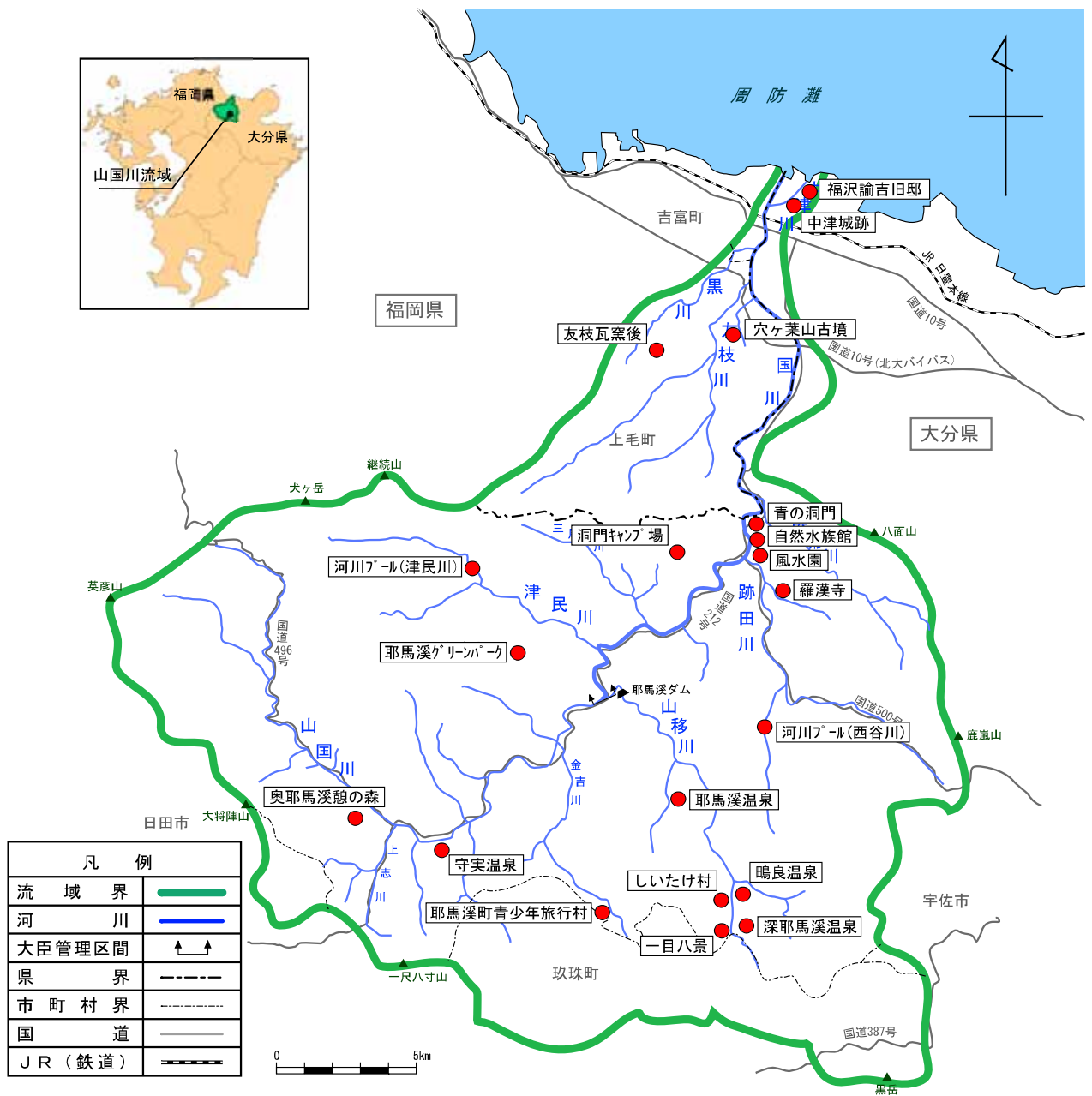


図 2 - 4 山国川流域における主な観光・レクリエーション施設位置図

## 2 - 4 自然公園等の指定状況

山国川流域は自然環境に恵まれた地域が数多く存在しており、下記のとおり公園等が指定されている。

### 2 - 4 - 1 山国川流域内の公園

流域には自然に恵まれた地域が数多く存在し、国及び県はこれら地域の自然環境の保全に努めるため、耶馬日田英彦山国定公園等に指定し、保護・管理している。

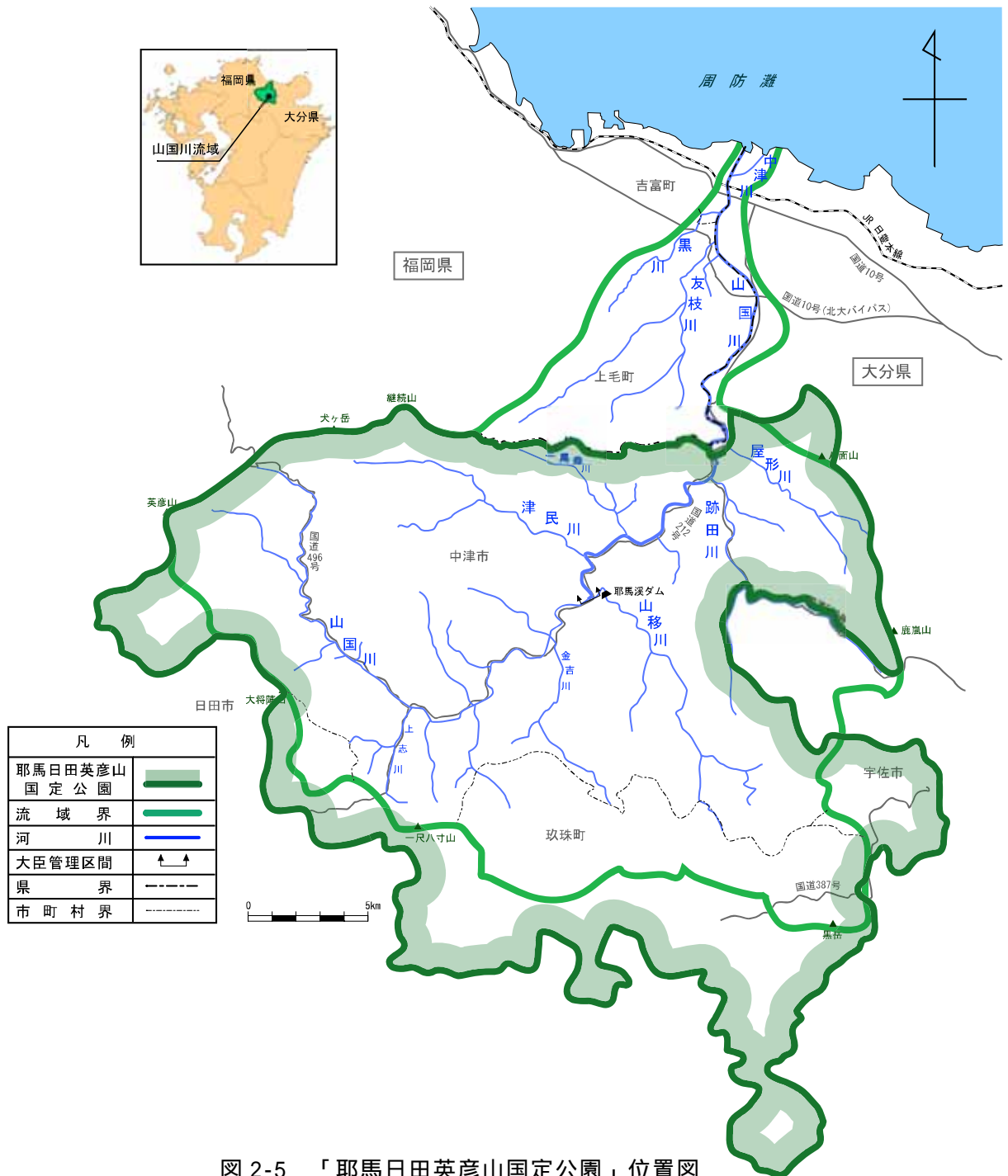


図 2-5 「耶馬日田英彦山国定公園」位置図

## 2-4-2 山国川流域内の鳥獣保護法設置区域

山国川流域では、鳥獣保護法により銃猟禁止区域、保護区、休猟区が以下のとおり設定されている。

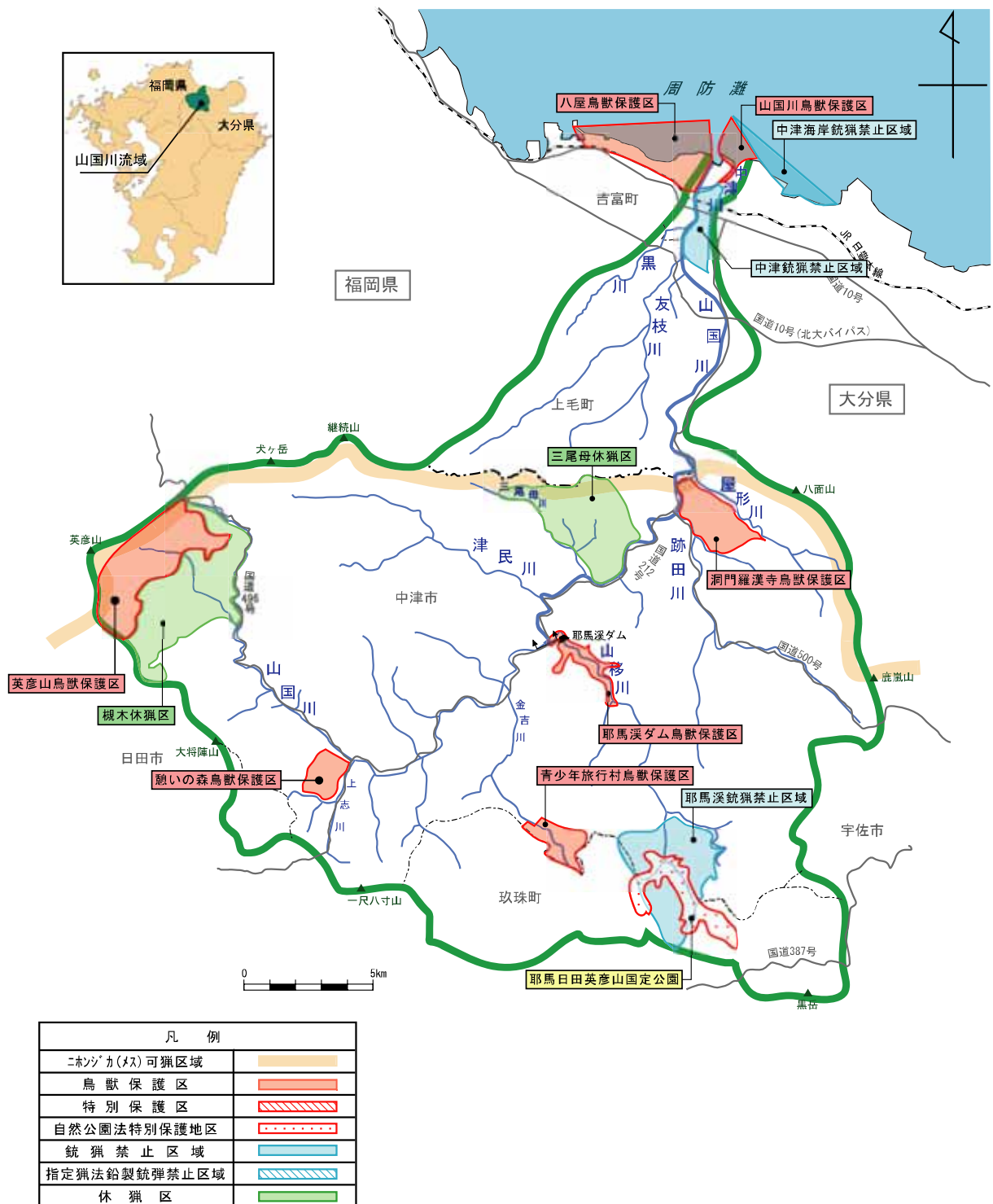


図 2-6 山国川流域の鳥獣保護区位置図  
(平成 17 年度大分県鳥獣保護区等位置図から抜粋)